

発行元 独立行政法人国立病院機構 宮城病院
 発行責任者 広報委員長 安藤 肇史
 〒989-2202
 宮城県亶理郡山元町高瀬字合戦原100番地
 TEL 0223-37-1131 FAX 0223-37-3316
 ホームページ <http://www.mnh.go.jp/>



みやぎ — 69号 —

新年を迎えて

あけましておめでとうございます。コロナ禍の中で2021年が明けました。コロナで明け暮れた2020年を振り返ってみるとまさに散々な年‘annus horribilis’とでも言えるような年でした。2月に新型コロナウイルス感染症がわが国で確認された同じ月、クルーズ船「ダイヤモンドプリンセス号」での集団感染が発生。この集団感染に対する日本の対応が国内外の注目を集めました。その後、2020年4月に最初の感染ピーク第1波があり、緊急事態宣言が政府から出され、感染者はいったん減少しましたが、8月の第2波を越えて、現在は12月から始まった第3波の真只中にあります。期待していた東京オリンピックは延期になり、コロナ禍の自粛ムードの中で我々は憂鬱な気分にとらえられています。

パンデミックは長い歴史の中で、何度も人類を襲ってきました。ヨーロッパで2500万人以上、全世界では7500万人以上が亡くなったとされる14世紀のペスト大流行（黒死病）はボッカチオによる「デカメロン」を産み、17世紀ロンドンで猖獗を極めたペスト大疫病禍はデフォーによって「ペストの記憶」という著書に紹介されています。今回のコロナ禍を契機に、マスコミや書籍で広く紹介されるようになった1918年のスペイン風邪のパンデミックは、その規模の大きさ（感染者約6億人、4500万人以上が死亡）から、現在の新型コロナウイルスのパンデミックと比肩すべきものだと思います。最近、NHK-BSでスペイン風邪についての番組をたまたま見る機会を得ましたが、当時の国内の状況が現在のコロナ禍と驚くほど似ていることに驚きました。軍隊や学校などの密集した集団に大規模なクラスターが繰り返しおこり、1918年秋からの第2波で25万人、19-20年の第3波で18万人が死亡。第2波の致死率は1.2%でしたが、第3波では5.3%に致死率が上昇しています。感染者が急増し、全国の医療機関は通常の医療ができなくなり「医療崩壊」になったということです。新聞などでマスク着用やうがいの励行が叫ばれてはいましたが、当時の国内は第1次世界大戦後の好景気で、ほとんどの工場は創業を続け、学校は通常通り、また演劇・相撲などの娯楽も大勢の人を集めていたそうです。現在は三密を避けることが必須になっていますが、当時の政府機関や社会には密集による流行伝播についての理解がなかったようです。発生源の米国をみると、第2波で密集制限・行動制限を実施したセントルイスでは、制限をかけなかったフィラデルフィアに比べて死亡者数が明らかに低く抑えられたことが知られており、当時においてもロックダウンは一定の効果を発揮しています。われわれ医療現場に居る者として、目下のパンデミックに立ち向かわなければならないことは言うまでもありません。しかし、政策決定者を含めて国民全体が団結し協調した行動をとらなければ、今後医療現場も社会も危機的な状況に陥るかもしれません。われわれは繰り返すパンデミックの歴史を学んで、賢く対応できるようになってきたのでしょうか。今回のコロナ禍が国民の叡智をもって早期に克服されることを祈りつつ、マルクスの名言「歴史は繰り返す、最初は悲劇として、2度目は喜劇として」にあるような喜劇にはならないようにと切に願います。

(宮城病院長 永野 功)

基本理念

『良い医療を安全に、心を込めて』

行動理念

1. 私たちは生命と人権を尊重し、患者さんを中心とした質の高いチーム医療を推進します。
2. 私たちは難病、重症心身障害など国が担うべき医療と臨床研究を推進します。
3. 私たちは地域の医療・行政機関と連携し、地域の方々の疾病予防や健康の向上に貢献します。
4. 私たちは病院の機能を十分発揮できるよう、健全な経営と経営基盤の強化に努めます。
5. 私たちは常に患者さん方から学び、向上する組織体を目指します。
6. 私たちは常に明るく働きがいのある職場づくりに努めます。



宮城病院公式マスコットキャラクター

「みやべりー」

Web会議システムを活用した集束超音波治療普及の取り組み

宮城病院では本態性振戦に対する集束超音波（FUS）治療が昨年の8月から始まりました。FUS自体、一般的には馴染みのない治療ですので、普及活動として新聞やテレビを活用し宣伝を行ってきました。さらに多くの医療関係者においてもFUSは十分には認知されていませんので、特に脳神経内科医師のいる病院を中心に訪問し、その概要を説明してきました。9月からはFUSがパーキンソン病の振戦に対しても保険適応となったため、より興味を持たれることが多かったと思います。ちょうどその時期はコロナ感染の状況が比較的落ち着いていたので、訪問を快く承諾して下さいました医療機関には感謝申し上げます。一方、昨今のコロナ禍により、テレワークが推進され、会議などもテレビ会議という形式を取ることが多くなりました。国立病院機構でも2020年7月以降、各病院にテレビ会議システム（Cisco社製Webex Room55）が導入され、すでに多施設間の会議に活用されています。特にコロナ感染拡大の第二波以降、訪問という形式は難しくなったため、FUS普及のためにWeb会議システムを積極的に活用することとしました。写真は青森病院と宮城病院間でのWeb会議の様子です。青森病院の高橋先生達にFUSの適応、期待できる点、問題点等を説明しました。Web会議の利点として第一にはこのような状況下においても安全に会議を開けるという点にあります。第二に、本来もっとIT技術の進歩を早くから活用すべきだったのですが、移動時間を節約できる点であります。ちなみに当院から青森病院までの所要時間ですが、新幹線を使っても片道4時間、車で4時間半かかります。これでは数十分の説明をするために丸一日使わなければなりません。いかにWeb会議が有用かわかります。一方、欠点としては、対面でないといわれない微妙なニュアンスというものは間違いなくあり、伝達力では劣る事です。これらの点を踏まえ、コロナ感染拡大が収束した際には、近隣では直接訪問による普及活動、遠方にはWeb会議システムを活用した普及活動を中心に行っていきたいと考えています。

（特命副院長 脳神経外科 安藤 肇史）

山元町クリーンキャンペーンの実施について



今年も第6回目を迎えた山元町・亶理町との協定事業に基づく「宮城病院クリーンキャンペーン」が令和2年10月4日（日）に開催されました。今回は山元町から広く声かけを行っていただき、昨年以上に町内企業の皆さま、両町役場、病院職員合わせて約250名近くの皆様にご参加いただきました。年々参加者が多くなっており、作業開始時には齋藤山元町長、山田亶理町長より挨拶をいただき、続いて永野病院長から「感謝の言葉と今後も亶理郡唯一の病院として根ざしていく」ことなどを挨拶し、午前9時から約2時間の作業を行いました。今回は当院の広大な敷地を4グループに分けて、草刈り草集め、木々の伐採などを中心に行っていただきました。特にリハビリ棟エリアでは大木が生い茂っていましたが、高所作業車や山元町建設課の皆様方に短時間で大木を伐採していただき、非常に視界良好となりました。今回もたくさんの参加者のおかげでとても綺麗にさせていただきましたことを深く感謝申し上げます。

（管理課長 大坂 雄二）

宮城病院における新型コロナウイルス感染対策のご紹介

宮城病院では、当院をご利用される方が安心、安全に過ごせるよう新型コロナウイルス感染対策に職員全員で取り組んでいます。取組の一部を紹介します。



院内でスピーディーなPCR検査が出来るよう「PCR検査装置」を整備しました。



各出入り口にAI体温認知顔認証カメラ4台設置。



受付や面談室に飛沫防止パネルを設置しています。



院内、院外に安全に患者さんを移送するため「陰圧キャリングベッド」を整備しました。救急車にも対応します。



発熱者専用の診察室に新たに「陰圧装置」を設置しました。

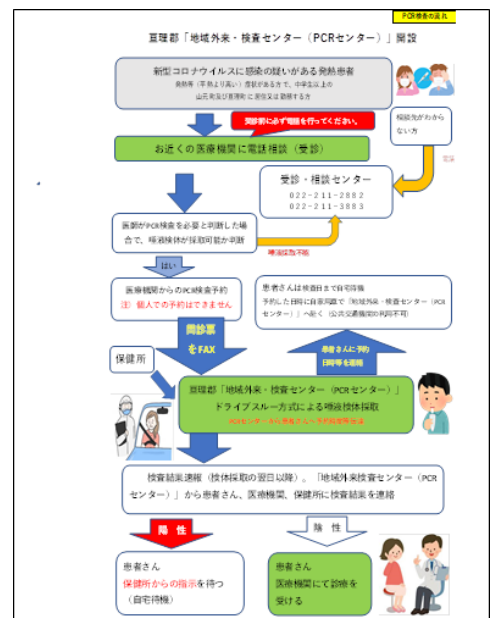


(事務部長 宗像 広)

亶理郡「地域外来・検査センター（PCRセンター）」開設される

令和2年12月7日から亶理郡「地域外来・検査センター（PCRセンター）」が開設されました。このPCRセンターは、新型コロナウイルス感染症の感染が拡大し、冬場を迎えてインフルエンザの流行も予想されるなか、新型コロナウイルス感染症の早期発見と感染拡大防止を目的として、山元町、亶理町、亶理郡医師会、宮城県が協議して医療機関からの紹介により、唾液によるPCR検査をドライブスルー方式にて行うものです。なお、設置場所は非公表となっています。

(事務部長 宗像 広)



亶理、山元両町 PCRセンター
来月にも設置
亶理、山元両町併設新型コロナウイルス感染症のPCR検査を担うドライブスルー方式の「亶理地域外来・検査センター」を12月上旬にも郡内に設置する。郡医師会の協力を得て運営する。両町に居住、勤務する高

校生以上の感染疑いのある発熱患者郡内のかかりつけ医に電話で相談。医療機関がPCR検査を必要と判断した場合、医療機関が検査を予約する。検査対象者は自家用車でセンターに行き、唾液による検査を受ける。結果は翌日以降、検査対象者と医療機関、保健所に伝えられる。週2回の検査日を設け、郡医師会の会員が輪番制で担当する。場所は非公表。中学生以下の子どもは受診・相談センターに電話で相談する。

第74回 国立病院総合医学会 開催される

第74回国立病院総合医学会【2020年10月17日(土)～11月14日(土)】

第74回 国立病院総合医学会

The 74th Annual Meeting of Japanese Society of National Medical Services

先進的イノベーションと支える医療の融合
求められる国立医療の構築～2020 ときを越えて～

2020年
10月17日(土)～11月14日(土)
Web開催

会長
中島 孝(国立病院機構 新潟病院 院長)

副会長
大平 徹郎(国立病院機構 西新潟中央病院 院長)
下村 登規夫(国立病院機構 さいがた医療センター 院長)
新木 一弘(国立病院機構 東京医療センター 院長)

第74回国立病院総合医学会が10月17日から11月14日までの間、新型コロナウイルス感染症の感染対策のため初めてWeb開催となりました。

開会式では、楠岡理事長より「オープニングリマークス・国立病院機構の未来ー2025年から2040年へー」の講演で、宮城病院が行っている「山元町地域包括支援センター」への取組の紹介がありました。理事長は、国立病院機構が地域医療にどのように貢献できるかという話の中で、キーワードとなる「地域包括ケアシステム」の構築が重要であり、宮城病院が令和2年4月から山元町地域包括支援センターの事業に積極的に取り組んでいるという紹介でした。

なお、来年度の学会は、仙台市内において会長施設が仙台医療センター、副会長施設が米沢と当院が担当して開催されます。(庶務班長 小川 哲)

地域包括支援センターから

前68号でコーディネーターの業務内容を紹介させていただきましたが、今月はその中から2つを紹介します。

認知症高齢者家族交流会…認知症と診断された方を介護するご家族を対象に、「認知症についての理解」「認知症ケアのポイント」「認知症当事者の思い」等の講話を行っています。また、少しでも介護者の介護軽減を図れるように、経験者からの体験談を座談会的に話せる場を設け、和やかな雰囲気の中実施しています。参加されたご家族からは、「とても勉強になり、今後役に立っていきます」などの感想も寄せられています。



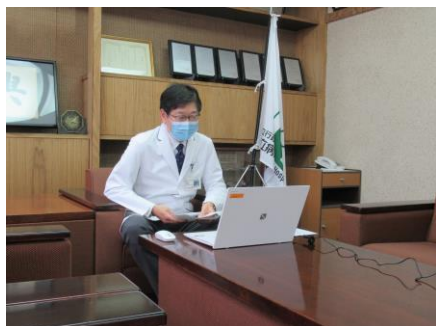
認知症カフェ「よりどころサロン」…地域住民・認知症当事者を対象に認知症予防を兼ね、脳トレ・季節に応じた折り紙やカレンダーの作成・音楽療法・認知症ミニ講話・リズムに合わせて軽運動など行います。12月には「クリスマスカード」「新年度に向け門松づくり」等の作成も行いました。認知症ミニ講話は地域住民の方が認知症に関する記事を新聞やテレビ、雑誌などから見つけ出し、その都度、軽運動も交えながら話をしています。参加者は他の人との交流を図り、笑顔で指先や頭を使いながら楽しんでいきます。



*病院ホームページにも開催日時など詳細が載っていますのでまずはご覧になり、是非ご参加ください。皆様の参加をお待ちしております。

(地域包括支援センター 保健師 佐藤 かおり)

札幌の中学生とオンラインインタビュー



令和2年11月のとある日、宮城病院のホームページを見て、「病院理念」に感銘を受けたと北海道札幌市に住む、将来医師を目指している中学2年生の男子中学生より永野院長へインタビューを行いたいと電話が入りました。

その後、学校の先生と打ち合わせを行い12月3日にパソコンを利用したオンラインインタビューを行うこととなりました。当日は、30分程度の時間でしたが、学生は顔を見ながらのインタビューに少し緊張していましたが、永野院長に

対し「宮城病院の基本理念について、詳しく教えてください」、「どうして医師を目指したのか」など生徒から質問があり、永野院長も丁寧に答えていました。コロナ禍ではありましたが、将来医師を目指している北海道の中学生に少しでも宮城病院が役立てたことは、非常に良かったと思います。

(管理課長 大坂 雄二)

山元支援学校「花いっぱい運動」



令和2年10月19日(月)、山元支援学校の生徒さん方による「花いっぱい運動」が行われました。今年は新型コロナウイルス感染防止のため、参加者全員がマスクを着用し、支援学校の生徒さん達と学校の先生方で植栽を行いました。生徒の皆さんは先生方と協力しながら、楽しそうに植栽作業を行っていました。今年も丁寧に植栽をしてくださったおかげで、入院患者様も綺麗なお花を見て心癒されたことと思います。

今後も山元支援学校と連携しながら、生徒さん達の学生生活を充実させるために応援していきたいと考えております。
(管理課 門馬史浩)

カルガモ親子に選ばれた宮城病院

南a病棟に沈んだ気持ちを一転させる明るい出来事がありました。新型コロナウイルス感染拡大に伴い様々な制限があり、4月に配置換えで着任した私自身も慣れない環境で戸惑いが続いていた6月の事です。

南病棟中庭に、野生のカルガモが卵を産み10羽の子ガモが生まれたのです。可愛い姿を目にするようになったことでカルガモ親子の存在に気がきました。当院の南病棟中庭が子育てには外敵が少なく安全であると親ガモは判断し選んだのでしょうか。カルガモに当院が選ばれたと感じた瞬間でした。親ガモは、子育てをする環境に困惑している様子もありましたが、親ガモの後を一生懸命ついて歩く、子ガモの様子は患者様や職員も心が癒されました。元気に巣立って欲しいと願いながら、私を始め南a病棟のスタッフは、頂いた支援物資(餌)の餌やりや水やりをして楽しくお世話をしました。そしていつしか私達は子ガモ達の母であるかのような眼差しで子ガモを見守っていました。10月に巣立った子ガモは1羽ではありましたが、子ガモが巣立つまでの約4カ月間、心が和み、癒され、楽しませて頂きました事に感謝をしたいと思います。来季にまた、巣立ったカルガモが「カモの恩返し」で当院の南病棟中庭に戻ってきてくれると嬉しく思います。

(南a病棟看護師長 小野 恵)



連携室から

今回は、退院支援について、簡単に説明させていただきます。計画的な治療、又は急な病状の変化などで入院生活を送られることがあります。病状が回復し日常生活動作など、入院前と変わらないようであれば安心して退院できます。しかし、入院前と違い、お一人でトイレに行けない、お着替えなど介助が必要など、病気を患ったことで日常生活を送る力が弱ってしまい、支援や見守りが必要な場合もあります。宮城病院では、安心して退院後の生活が送れるよう、主治医を中心に、退院調整看護師、医療社会事業専門員(医療相談員)、病棟看護師、リハビリテーションスタッフなど多職種の医療チームで、介護保険制度の利用などを一緒に考え、支援させていただいております。退院後の生活に不安がある場合、医療相談室へ気軽にご相談ください。

(地域医療連携係長 高橋 美鈴)



クリスマスイルミネーション

当院恒例のXマスイルミネーション!!今年も12月1日~12月28日の日程で開催されました。職員がすべてデザイン・飾り付けを行っていて、まさしく「手作り」のイルミネーションです。点灯式当日は寒いなか、点灯式に集まった職員が「10・9・8・・・1」とカウントダウン、院長先生がスイッチオン!!「わあ〜♪」の歓声とともにきらびやかに、イルミネーションが浮かび上がりました。病院の正面玄関前の前庭が一気に華やかになり、コロナ禍も吹っ飛ばせそうな勢いです。来年も更なるバージョンアップに向け頑張りたいと思います。



(サービス委員会 庶務係長 小原 有里)

| 診療科 | | 曜日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 |
|-------------------|-----------|----|-------------------|----------|--|--|--------------------------------------|
| 脳神経内科 (新患は予約制) | 新患 | | 久永 欣哉 | 渡辺 靖章 | 宮澤 康一 | 松本 有史 | |
| | 再来 | | 永野 功 | 久永 欣哉 | 川崎 永美子 | 久永 欣哉 | 久永 欣哉 |
| | | | 渡辺 靖章 | | 松本 有史 | | 金子 仁彦 (隔週) |
| 内科 | | | 清野 仁 | 清野 仁 | 志澤 聡一郎 | 清野 仁 | 清野 仁 |
| | | | 志澤 聡一郎 | 志澤 聡一郎 | 齊藤 秀行 | 志澤 聡一郎 | 志澤 聡一郎 |
| | | | 齊藤 秀行 | 中川 孝 | | | 東北大学病院から |
| 循環器内科 | 午前 | | | 東北大学病院から | 加藤 浩 | | |
| | 午後 | | 東北大学病院から (検査日) | | | | |
| 呼吸器内科 | | | | | 東出 直樹 | | 蒲生 俊一 |
| 消化器内科 | 午後 | | | | 県立がんセンターから (13:30~15:30) 第2・4週(木を基準) | 県立がんセンターから (13:30~15:30) 第2・4週(木を基準) | |
| 外科 (総合診療外科) | 午前 | | 八巻 孝之 | 八巻 孝之 | | 八巻 孝之 | |
| | 午後 | | | (手術日) | | (手術日) | |
| アレルギー科 | 午前 | | 堀川 雅浩 | | 堀川 雅浩 | | 堀川 雅浩 |
| 小児科 | 午前 | | 堀川 雅浩 | | 堀川 雅浩 | | 堀川 雅浩 |
| | | | 東北大学病院から | | 東北大学病院から | | 東北大学病院から |
| 整形外科 | 午後 | | | | | | 県立がんセンターから (13:30~15:30) |
| 形成外科 | | | | | 舘 一史 | | 澤村 武 渡部 紀久子 (隔週交替 13:30~15:30) |
| 皮膚科 | | | | | | | 東北大学病院から |
| 脳神経外科 | | | 仁村 太郎 | 安藤 肇史 | 仁村 太郎 | (手術日) | 安藤 肇史 |
| | | | | 永松 謙一 | | | |
| 歯科 | | | 中原 寛子 | 中原 寛子 | 中原 寛子 | 中原 寛子 | 中原 寛子 |
| | | | 稲木 涼子 | 稲木 涼子 | 稲木 涼子 | 稲木 涼子 | 稲木 涼子 |
| 専門外来 | パーキンソン病外来 | | 脳神経内科外来にて随時受け付け | | | | |
| | 頭痛外来 | | 脳神経内科外来にて随時受け付け | | | | |
| | もの忘れ外来 | | 脳神経内科外来にて随時受け付け | | | | |
| | ALS外来 | | 脳神経内科外来にて随時受け付け | | | | |
| | ふるえ外来 | | 脳神経外科 (予約制) | | 脳神経外科 (予約制) | | 脳神経外科 (予約制) |
| | 糖尿病外来 | | | | | | 東北大学病院から |
| | 禁煙外来 | 午後 | | | | | 山本 蒔子 (第2・4週) |
| | 女性外来 | 午後 | | | | | 山本 蒔子 (第2・4週) |
| | 漢方外来 | | 志澤 聡一郎 | | | 志澤 聡一郎 | |
| | 腎臓病外来 | 午後 | | | 若林病院から (第1・3週) | | |
| | 入れ歯外来 | | | | 泉田 一賢 | 伊藤 秀美 | |

受診される方へ-----交通のご案内-----

①受付時間は8:30~11:00です。

②土曜日・日曜日・祝日・休日及び年末年始
(12月29日~1月3日)は休診です。

ただし、**急患の方は随時受付いたします。**

お問い合わせ先 0223-37-1131

③初めて当院を受診される方は、他の医療機関からの紹介状をお持ちください。紹介状がなくとも受診はできますが、その場合初診時に**2,750円を負担**していただくこととなりますので予めご了承ください。

●自動車でおいでの方●

■仙台方面から■

仙台市中心部から南へ約40km、国道4号線と6号線分岐点から南へ20km、国道6号線314.5kmポイント(標識)が目印です。高速道路ご利用の場合、常磐自動車道山元ICで降り、国道6号線を相馬方面へ南下。山元ICから約5km。

■相馬方面から■

国道6号線を仙台方面に向かい、宮城・福島県境から約10分です。

●交通機関をご利用の方●

■仙台方面から

JR常磐線山下駅下車。タクシーまたは町民巡回バス利用。
(詳しくはお問い合わせください)

